

全視情協 / ないーぶつうしん	2002/1/20
NAIIV 通信	No.28
発行 発行責任者 川越 利信	
特定非営利活動法人	
全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)	
事務局 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel.06-6441-0015 Fax.06-6441-0039 E-mail : naiiv@kurumi.sakura.ne.jp	

主 な 内 容

● 第27回全視情協大会開催	1
平成13年度通常総会	2
全体会1 「ないーぶネット」の活用	4
全体会2 これからの情報提供施設のあり方	
-- 施設とボランティアのあり方 --	6
分科会1 これからの音声情報サービスについて	7
分科会2 「点訳のてびき」の改訂について	11
分科会3 これからの施設運営	13
● 第20回音訳指導技術講習会	
(第6回音訳指導員資格認定講習会) 報告	17
● デイジー録音図書補充アンケート結果報告	18
● お知らせ	19
● ご案内	20

第27回全国視覚障害者情報提供施設大会 開催

平成13年10月17日(水)~19日(金)、富山市の名鉄トヤマホテルを会場に、第27回全国視覚障害者情報提供施設大会が開催された。参加者は76施設・180名。

NPO法人として初の大会であり、最終日には式典が行われた。

各委員会メンバーを中心に、全体会・分科会が企画され、熱心な研修の場となった。厚生労働省からは社会・援護局障害保健福祉部企画課社会参加推進室の江波戸一敏氏に「視

覚障害者と情報」と題した講演をいただき、また、日本盲人会連合参与・情報部長、牧田克輔氏には「視覚障害者を取り巻く情報問題」についてのお話を伺った。

式典は、NPO法人としての対外的アピールをも目的として挙行された。今回は、法人設立にご尽力いただいた、前・石川県視覚障害者情報文化センター所長の盛田義弘氏に感謝状が授与された。また、大会決議として4項目がまとめられた。

恒例の機器展示も行われ、3日間は無事終了した。

詳細は後日、報告集が出されるが、この号では概要のみ報告する。

平成13年度 通常総会（17日 10:00～12:00）

大会の開会に先立ち、各施設代表による総会が開かれた。NPO法人として初の通常総会であり、委任状提出を含め78施設の出席があった。議長に竹島信也氏（三重県点字図書館・館長）、岡本博美氏（山口県盲人福祉協会点字図書館・館長）を選出し、以下の議題について審議した。

第1号議案：平成13年度上半期事業報告

第2号議案：平成14年度事業計画

第3号議案：大会決議について

第4号議案：その他

日本点字委員会委員選出

「ないーぶネット」維持費用について



盛田氏に感謝状贈呈

* 平成14年度事業計画（骨子）について

「全体事業」

- ・ 特定非営利活動法人としての組織の強化
- ・ 平成13～14年度の基本テーマである「ないーぶネットの充実」を最重点にして事業を進める
- ・ 「ないーぶネット」システムの維持経費の確保（公的補助）
- ・ 公共図書館に「ないーぶネット」参加を働きかける
- ・ 総会の開催（6月 臨時総会・徳島市、10月 通常総会・広島市）
- ・ 全国視覚障害者情報提供施設大会の開催（10月9日（水）～11日（金）、広島市）
- ・ 著作権対策
- ・ 他団体との連携
- ・ 啓発事業

上記事業計画に基づき、以下の各委員会を設置し、活動を行う。

- ・サービス委員会
- ・点訳委員会
- ・録音委員会
- ・システム管理委員会
- ・啓発委員会（新規設置）



川越理事長挨拶

* 日本点字委員会委員について

日本点字委員会は平成14年4月に委員改選が行われる。現在、本会からは、田中徹二氏(日本点字図書館・館長)、水谷吉文氏(天理教点字文庫)、藤野克己氏(視覚障害者生活情報センターぎふ・館長)を選出しているが、14年4月に、田中氏から日本点字図書館の当山啓氏に交代する。水谷氏・藤野氏は留任。今回(第9期)の任期は2006年3月まで。

* 「ないーぶネット」維持費用について

平成13年度から視覚障害者情報提供施設(点字図書館)運営費として年間240万円が予算化されたことに伴い、この一部を「ないーぶネット」維持管理費に充当することについて協議した。ネットワークの維持管理費の捻出は重要な問題であり、引き続き、国への要望を行っていくが、各施設の負担等についても今後検討していくこととなった。今回の予算充当については結論は出なかった。(なお、18日の「分科会3」でも引き続き審議された。)

* 大会決議

最終日の大会式典で今大会の決議が採択された。NPO法人として、関係各方面に働きかけていきたい。

決 議

- 一、「ないーぶネット」のシステム維持経費を、公費で負担するよう要望する。
 - 一、視覚障害者の情報バリアの解消のため、視覚障害者情報提供施設にIT指導員を公費で配置するよう要望する。
 - 一、デジタル録音図書読書機の日常生活用具指定を要望する。
 - 一、視覚障害に関する文化を保存するため、資料館(仮称)の設置を要望する。
- 以上、決議する。

平成13年10月19日

第27回全国視覚障害者情報提供施設大会

全体会1 (17日 14:00~17:00)

「ないーぶネット」の活用

担当：サービス委員会、システム管理委員会

司会進行：後藤健市(北海点字図書館・副館長)

サービス委員会委員長・小野俊己氏、システム管理委員会委員長・西田洋一氏から挨拶をいただいた後、以下の内容で進行した。

パイロット館による導入から稼働までの経過報告と稼働後の活用について

- (1) 愛媛県視聴覚福祉センター 白石 卓也氏
- (2) 神戸市立点字図書館 西 ひとみ氏
- (3) 千葉点字図書館 川崎 弘氏

「ないーぶネット」導入のための各施設の準備について

日本点字図書館 勢木 一功氏

サービス委員会・システム管理委員会からの提案

(1) サービス委員会より

- ・「ないーぶネット」にアップされるデータの中で、他館の録音図書をデジタイズ編集した図書の書誌の取り方について
目録入力プロジェクトを立ち上げて、書誌の取り上げ方について検討したいと考えている。
- ・国立国会図書館へのデータ登録について
雑誌についてはAB01には登録しないでいただきたい。サービス委員会でまとめて通知する。雑誌一覧はデータで公開する。
(「ないーぶネット」研修会資料については、Q&Aにまとめてアップする。)
- ・複製の問題について
著作権に絡む問題であり、他委員会とも検討の上、申し合わせ事項として決めていきたい。
- ・業務マニュアルについて
現在、N-LINKマニュアルとネットワークのマニュアルの二つに分かれており、業務についてのマニュアルがない。職員の異動等の際、わかりやすいマニュアルがほしいとの声があるので、そうしたマニュアルを作成したい。
- ・利用者のプライバシーをどのように管理していくか？
情報管理の規定を設ける等の処置を行い、職員間での取り決めが必要ではないかと考えている。日本点字図書館ではコンピュータウイルス・NIMDA(ニムダ)に感染してしまって大変なことになった。ウイルス等への危機意識が必要である。

(2) システム管理委員会より

・利用規約の改正について

普通会员と特殊会員を設けた。

特殊会員は以下のとおり。

- ・BM会員(新規)・・・施設に所属するボランティア(施設で、IDやパスワード管理を行う)

- ・BC会員・・・機能制限のある施設団体

- ・レンタル会員・・・一時的にユーザー研修等を行うために使うID

・旧システム(パソコン通信版)について

コストダウンのため、TRI-Pを平成13年10月で廃止。新システム(インターネット版)掲示板にも掲示している。

個人会員の無料化等により160万円の赤字となっている。今後、任意による協力会員を募る予定。1口5000円の協力金要請の文書を送付予定。

・スタンドアロン方式

バグ等についての改良版「N-LINK」CD-Rを送付予定。

・クライアント・サーバ版の配布について

IBMのソフトDB2とマイクロソフトOSとのマッチングが悪かったため、7月配布予定が遅れていたが、10月15日から配送している。サーバー内にすでに統一・データ移行プログラムがインストール済。同封の手順書に従って作業してほしい。バックアップ用DAT有り。

録音図書ネットワーク配信システムの開発と実証実験について

シナノケンシ株式会社 電子機器事業部IS技術部 西澤 達夫氏

録音図書ネットワーク配信システムとは、自分が読みたい時に、読みたい本を検索し、ストリーミング技術を使って、試聴し、気に入ればダウンロードするというものである。現在、このシステムを検証中である。

シナノケンシが(財)ニューメディア開発協会からの委託を受けて行っており、現在のインターネットサーバーやデータベース等を活用し、費用がかからないようにした。検索のデータベースには「ないーぶネット」のデータベースを活用している。

コンテンツサーバーでは、ハードディスクに合計3000タイトルのデジター図書を用意できるよう準備している。3000タイトルで450GBの容量。メールサーバーは一般のものを用意している。

ユーザーは標準的なパソコンを活用し、専用ソフトをインストールし、パソコンのテンキーを使って操作をする。プレクストークの操作感覚で活用できる。

将来的には小型なもので、ネットワークに接続できるようなものを開発することを目指している。

今後は、複数のアクセスへの対応や、著作権の処理などが課題。

全体会2 (18日 13:00~15:50)

これからの情報提供施設のあり方

-- 施設とボランティアのあり方 --

司会：藤野克己(視覚障害者生活情報センターぎふ・館長)

岩井和彦(日本ライトハウス盲人情報文化センター・館長)

まず、司会者から、「私たちのサービスはボランティア活動抜きには語れない。しかし、施設種別や地域により導入状況は異なる。今年はボランティア国際年でもあり、情報交換を行うことはたいへん意義がある。」と趣旨説明があり、3施設からの報告をもとに意見交換した。



発表1 (公立公営施設。宮城県点字図書館 伊藤 明男氏)

従来は、奉仕員の名称で点訳・朗読・校正作業に従事していただき、総計114名の大世帯となる。サービスの多様化で、新しく図書製作補助奉仕員とパソコン奉仕員を養成。

今後は、ボランティアのグループ化、中途失明者への点字指導、ボランティアの学校への講師派遣が必要。

考え方としては、以下の3点があげられる。

依頼する目的はサービスの多様化、拡大への対応

職員が把握する中での活動

個人情報に関する部分は依頼しない

発表2 (公立民営施設。熊本県点字図書館 館長 西田 洋一氏)

九視情協(九州視覚障害者情報提供施設協議会)では大会の場でボランティア活動の情報交換を行っている。協議会結成は昭和60年、施設職員が専門性を持ってボランティア活動を指示するための情報交換の場の確保が目的であった。

熊本県点字図書館の活動の特徴は、利用者のニーズに応えるための手引き活動、IT研修参加・協力等、多様であり、施設とボランティアの協力関係は良好である。

問題点として、保険の加入、期限ある作業に従事していただくボランティアへの謝金、ボランティアの高齢化などがある。

発表3 (民間立民営施設。日本ライトハウス盲人情報文化センター 工藤 孝雄氏)

22年の歴史を振り返って、地の利を生かした来館活動では大きな成果があったが、活動を受け入れられない人への対応は難しい。点訳でのペア校正、音訳でのペア録音も当初は抵抗があった。現在は、ボランティア活動の総合計時間は、1ヶ月あたり7,862時間(職員数にして56人)となる。

課題として、

ボランティアと職員の気持ちの上での対等な関係
有償ボランティアの導入と、無償活動とのすみわけ
ボランティアに幅広い理解を求めるための情報提供

全体討議

この後、テーマを以下の7点に絞って討議した。

- 1 受け入れ段階での選抜試験の実施について
- 2 活動範囲はどこまでとするか
- 3 有償ボランティアの功罪
- 4 保険の加入について
- 5 他館で実績のあるボランティアの受け入れ
- 6 高齢化に伴う引き際の配慮と定年制
- 7 情報提供事業と無償ボランティアの考え方

まとめ

今後は、全視情協が法人として対外的にアピールする必要も増加すると思われるので、ボランティアと施設の関係を明らかにするような根源的議論の場が必要である。

分科会1 (18日 9:00~12:00)

これからの音声情報サービスについて

担当：録音委員会

司会進行：姉崎久志(神奈川県ライトセンター)

1. デジタル録音関連機器の紹介

発表者：シナノケンシ株式会社 西澤 達夫氏ほか

(1) DAISY規格の動向について

(DAISY 1.0から最近のDAISY 2.02の規格の特徴等を説明)

現在、「Sigutuna(シグツナ) 2.0.17」が音声と見出しだけのDAISY録音図書製作ソフトの主流である。

しかし、フルテキストシンクロ機能を持った「Sigutuna 3.0」「LP Studio Plus」(シグツナ3の商用版)が最新のソフトとして開発されている。

当面は、録音図書製作は「シグツナ 2.0.17」で、フルテキストシンクロや脚注などを必要とする専門資料は「シグツナ 3.0」で製作となるのではないか。

・ Lp Player日本語版について

DAISY 2.0規格で製作された録音図書を再生するソフトウェア。

従来の「見出し+音声」の録音図書に加え、LP Studio Plus、Sigutuna 3などで製作されたマルチメディア録音図書も再生可能になる。

(2) レコーディングツールの紹介と実演

リモートコントローラー RE-11

- 主な特徴
- ・ 録音ブース内からのPC録音ソフト制御
 - ・ LP Studio PlusとSigutuna DAR2.0に対応
 - ・ 小型ディスプレイ表示によるナビゲーション
 - ・ カセットデッキ感覚による録音操作
 - ・ ファンクションボタンとジョグシャトルによる簡単操作

PLEXTALK CDポータブルレコーダーの説明と実演

- 主な機能
- ・ 録音機能（音楽CD、長時間音楽用、朗読用、会議録）
 - ・ 多彩な編集機能
 - ・ 検索機能（従来のPlectalkの再生機能を全てカバー）
 - ・ 豊富な再生可能コンテンツ（音楽CD、MP3CD、デジター図書）
 - ・ 簡単しおり機能と音声しおり機能（メモ帳代わりに使える）
 - ・ 録音図書・音楽CDのバックアップ機能
 - ・ ポータブルCD-RWとしての活用
 - ・ その他

付属PC録音ソフト（Plectalk Recording Software）の紹介

- 主な機能
- ・ 視覚障害者自身が利用可能。音声ガイド機能を使用して、全ての操作をキーボードで実行
 - ・ MP3形式で録音可能
 - ・ Sigutuna DAR2.0同様、フレーズによる編集が可能

2. MOディスクを使用したデジタル録音図書製作システム

発表者：オタリテック株式会社 小野寺 健治氏

MOディスクレコーダー DX-5の説明と実演

DX-5の機能と主な特徴

- ・ デジター録音図書製作を前提として開発された
- ・ 録音媒体にはMOディスクを使用
- ・ ファイルフォーマットはWAVEファイルを採用。ウィンドウズPCでも容易に扱える
- ・ 操作はシンプル。カセットデッキ感覚で使いやすい

- ・「後追い録音」「はめ込み録音」等の必須機能は、試し録音が何度でも可能
- ・全ての操作がビープ音で確認可能
- ・デジフォーマットへの変換は、専用変換ソフトにより短時間で完了

3. MOディスクレコーダー(DX-5)を導入して

(1) 事例発表1

発表者：視覚障害者生活情報センターぎふ 後藤 緑氏

導入にいたる経緯

カセットテープの品質の劣化。現在のマスターテープ及び将来の保存も考慮。DATやMDも試してみたが、コスト面等のこともあり、MOに取り組むことにした。

使用しての感想

- ・操作に習熟するまでが大変であった
- ・はめ込み訂正練習が大変
- ・人によってフレーズの切れ方が違う
- ・取扱説明書が非常に理解しにくい

今後の展開

習熟すれば十分使用できるので今後も使用していく方向で検討している

その他

シグツナとの用語の統一ができないものか



(2) 事例発表2

発表者：石川県視覚障害者情報文化センター 秋元 廣子氏

導入について

導入については岐阜とほとんど同じ

使用しての感想

- ・使用できるようになれば、非常に使いやすい
- ・現在、オープンテープをデジタル化している

今後の展望

将来を考えるとMOも一つの選択肢と考えられる

4. これからの情報サービスのあり方 ~インターネットとDAISY図書~

提言者：日本ライトハウス盲人情報文化センター 村井 晶人氏

(1) 「てんやく広場」時代から「ないーぶネット」時代へ

- ・パソコン通信からインターネットになり、地域間格差はずいぶん解消された
- ・今後は、ADSL、光ファイバー等の大容量高速通信が展開される

録音図書もデジタル化することによってインターネットでの配信等が可能になる。従って、2005年ごろにはカセットテープからデイジー図書への変更を考えなければいけないのではないだろうか。

(2) 「ないーぶネット」(インターネット版)で果たせなかったデイジー図書の扱い

現在、「ないーぶネット」での録音図書は、目録情報とオンラインリクエスト等のサービスに限定されている。今後、録音図書の扱いをどうしていくのか、分散管理等、いろいろな方法をみんなで考えないといけない。

(3) 今後の通信環境の変化

今後の通信環境の変化に伴い、録音図書の配信も可能になる。デイジー関係の開発も進む。今後は弱視者への対応をもっと視野に入れていくべきではないか。

(4) 今後私たちが準備すべきこと

- ・著作権の処理 ネットでの録音図書の配信
- ・読書機の日常生活用具指定
- ・効率的な管理運営

現在、N-LINK、カセットでの録音図書製作、デイジー図書製作、点字書の製作等、現場はたいへんである

(5) デジタル化のための目標年度設定

現在は、アナログからデジタルへ変更の過渡期である。各施設が相互に協力し、カセットテープからデイジー図書への変更目標年度を、2005年を目途にして取り組んでみてはどうだろうか。

自主学習会 (18日 19:00~21:00)

デジタル関連機器紹介

分科会1で紹介のあった機器の実演、質疑応答等。

分科会 2 (18日 9:00~12:00)

「点訳のてびき」の改訂について

担当：「点訳のてびき」改訂特別委員会作業委員会

進行：高橋恵子（千葉点字図書館）

1. 「点訳のてびき第3版」改訂作業の経過、及び「原案2」の内容について

発表者：藤野克己（視覚障害者生活情報センターぎふ）

経過報告および今後のスケジュール

「原案1」(8月20日発送)に対して寄せられた意見をもとに修正した「原案2」について協議し、今大会で基本的な改訂部分について承認を得たい。

「点訳のてびき第3版」を3月上旬に発行、「点訳問題集(基礎編)」「初めての点訳」なども改訂し、平成14年4月からの点訳講習会等に利用できるようにする。

内容説明

日本点字表記法の変更に伴う改訂点、「点訳のてびき(第2版)」が持つ問題点の修正、および新たな試みについて「原案2」に基づいて説明。

2. 質疑応答・意見交換

担当者：藤野克己（視覚障害者生活情報センターぎふ）

小菅一代（上野点字図書館）

加藤三保子（にじの会）

以下、発言の趣旨を要約した。

* は、全体会で「点訳のてびき第3版」の承認を得る際に、今後の検討事項とした項目。その他は、主な発言。

は、作業委員の回答。

・ は、関連発言

第2章

その1、2

* 1. <処理3>「ちゅうりっぷ」の用例が、「コラム」との関係で紛らわしい。

第3章

その2

*2.【備考1】「各・全・・・」などの連体詞としての使い方を先にまとめてほしい。

*3.【備考3】動詞転成名詞で続けて書く用例をあげるか、用例があげられないようなら、この【備考】は削除してほしい。

4.【備考1】漢語の中でも「味噌・椅子」などや、また「駄目・場所」などの混種語も同様に考えるのか。

境目がむずかしいので、用例は示さず、判断に任せる。

- ・このような語を集めた項目があってもよいのではないか

4.【備考2】「のり養殖場」の用例ははずしてほしい。

和語の2拍で区切る例を入れたかったので、もっとよい例があれば出してほしい。

*4. <処理> 用例を 校正ミス 計算ミス

4. <処理> 2拍の外来語で、「宣伝カー・商社マン」は続いて、<処理>では切るとするのは紛らわしくないか。「カー・マン・デー」は例外といってよいか？

- ・2拍+4拍の外来語の切れ続きがわからない

4が原則で、<処理>は「意味の理解を助ける場合」である。

9.【備考3】「和語は区切る」と言い切って、「与する・関する」を用例からはずしてほしい。

他にも「糊する・物する」など微妙な語もある。また、「表記法」で用例としてあがっているので、はずすわけにはいかない。

*15.【備考2】「区切ると意味の理解を損なう場合は続けて書く」を「2拍で～」と限定してほしい。

その3

*3.人名に続く「さん、様、君、殿、氏、」に会社名や県名などの入った固有名詞の例を入れてほしい。注釈つきでもよい。

ソニーさん、福岡さん（福岡県）、春日さん（春日大社のこと）

その4

*1.方言の用例に北の地方のものも入れてほしい。

第4章

その3

*3.波線の両端が揃わない場合、必ずしも「波線の前後は続けて書く」と言い切れないので、(2)の規則の表現を考え直す。

第5章

その6

- * 3 . 標題紙の用例に外枠のつかない例も入れてほしい。

全体的に

- *(1) 規則を通し番号にしてほしい。
 - (2) 点字版の目次をもっと詳しく入れてはどうか。
 - *(3) 点字版の出版も考えてほしい
 - (4) 「てよい」「できる」の表現をもう一度検討してほしい。
- * その他、次の箇所についての質問や意見が出たが、説明・協議の結果「原案2」のとおりでよいとの合意を得た。
- 第2章 「basicな装い」の用例について
 - 第2章 電話番号の書き方
 - 第4章 カギ類 「一つの文の中に、カギで囲んだ文が並列するとき」のマスあけ
 - 第4章 中点(4)「本来一続きに書く語の間の中点」
 - 第5章 挿入文の書き方の段落挿入符
 - 第5章 目次の位置 など

分科会3 (18日 9:00~12:00)

「これからの施設運営」

総合司会：田中徹二(日本点字図書館・館長)

分科会3は、「これからの施設運営」というテーマで、施設種別ごとに3グループに分かれてディスカッションをおこなった。

まず、川越理事長から問題提起していただいた。「IT革命に伴うネット社会における視覚障害者情報提供施設のあり方」についての話を伺い、また、前日の理事会にも提案された「ないーぶネット」の維持管理費についての報告があった。

「ないーぶネット」事業の委託窓口となっている日本点字図書館からは、「ないーぶネット」運営の説明があり、平成14年度後半からきわめて厳しい状況であることが報告された。

理事長の話と各グループの討議内容は以下のとおりである。

《問題提起：川越理事長》

「ないーぶネット」の予算は、当初、平成11年度補正予算として日本点字図書館にいた。厚生省（当時）等との協議で、「ないーぶネット」は全視情協の事業であり、日本点字図書館を窓口とすることを了解し、今日まで運営されてきた。日本点字図書館の若い皆さんには精力的に取り組んでいただいている。

今回、平成13年度下半期から各施設につくことになった「情報化対応特別管理費」(注)の1割程度を、「ないーぶネット」の運営費に充当する案が出された。理事会にも諮ったのだが、事前の情報がなさ過ぎるとの不満も多い。

管理費自体も、自治体によってバラツキがあり、施設によっては、用途を決めてしまったところもある。設置した時、なぜランニングコストを考えなかったのかとの指摘もある。また、「管理費」では、長期展望の上からもあいまいである。今後、全視情協と日本点字図書館・日本ライトハウスとの関係のあり方が問題であり、トラブルも起こりうる。

この際、「ないーぶネット」は、全視情協の事業であることを明確にする必要がある。そして、日本点字図書館、日本ライトハウスを中心に、全視情協としても予算獲得の支援に全力をあげる必要がある。厚生労働省と膝を交えて話し合わねばならないだろう。国にハードまわりの予算をつけてもらい、コンテンツまわりは、全視情協として応分の負担をし、責任を持つ。

また、これから浮上するであろうこととして、たとえば委託図書のことがある。今日のIT社会にあって、国費で日本点字図書館や日本ライトハウスが本を製作する制度が妥当なのか、そのような予算の使い方でのいいのかを本音で検討する時期に来ているともいえる。

(注)「情報化対応特別管理費」

厚生労働省は、視覚障害者情報提供施設に対して、1施設につき年額240万円の「情報化対応特別管理費」を予算化した。(国120万円・都道府県120万円負担)。平成13年10月以降実施。従って、平成13年度は年額120万円となる。

《グループディスカッション》

1. 民間立民営施設グループ

理事長ならびに「ないーぶネット」事業の受託先である日本点字図書館(日点)館長が出席されていたため、再度、執行部としての説明を受け、認識を深めることができた。

川越理事長：執行部として今後の負担額等を示すことができない状態で、これが現状であり問題点であるともいえる。国の予算措置は日本点字図書館に対してである。全視情協は日本点字図書館や日本ライトハウスをコントロールすることはできない。今、提案されているのは、例えば情報化対応特別管理費の10分の1を全視情協の会計に入れて全視情協が使うということである。その用途はメインサーバー等の経費である。全体としては次のような経費負担が考えられるのではないかと。

- 1．全視情協の負担（メインサーバーとハード面のメンテナンス）
- 2．各施設の負担（ソフト面（データ、標準化））
- 3．利用者の負担

田中日点館長：この間の経緯について説明すると、日本点字図書館は以前から国の事業を受託しており、今回も同様に引き受けた。諸経費について、国は平成14年度上半期までは責任を持つとのことだった。それ以降の分については14年度下半期を含め、各年度予算の概算要求時に財務省に要求に行くことになっている。しかし、平成14年度下半期を含めた「ないーぶネット」の維持管理費に係る平成14年度概算要求額は2360万円で、所要額にはほど遠い額であり、それすらも財務省の査定でどうなるかわからない。仮に概算要求額が認められても相当の不足が生じてくるため、皆様にご負担をお願いしたいということで理事会への緊急提案となった。

(1) 「情報化対応特別管理費」の一部徴収の提案について

理事会で方向性をより検討すべきではないかとの意見が大勢を占めた。

- ・ないーぶネットの必要性はどの施設も同じ。ここまで整備されてきたのだから、今更中止というわけにはいかない。維持管理費を各施設が負担することは大変だろうが、自分のものだと思って負担しなければならないのではないかと。
- ・N-LINKの関連システムを作り上げたが、あまりにも正確な書誌を作ろうとするから、ネットとしてサーバーの負担が大きすぎる。

(2) 「ないーぶネット」の位置付けと、あるべき姿および今後の運営について

「ないーぶネット」は全視情協全体の共有財産であること、その維持管理に関わる経費の必要性も確認した。「ないーぶネット」の維持管理経費については所要額を国側が負担すべきものであるとの認識の上にとって、国への運動が必要であるとの意見が大勢を占めた。また、長期展望をも含めた具体策を早く示すようにとの意見もあった。

2. 公立民営グループ

(1) 「情報化対応特別管理費」の一部徴収について

理事会の提案を中心に議論したが、無理だとの意見が大勢を占めた。

- ・14年度の要求は終わっている
- ・予算の使用目的が決まっている
- ・14年いくら、15年いくらと数を示してほしい
- ・剰余金(580万円)でうまくつなげないのか

(2) 負担金(会費、利用料)について

- ・利用者の負担(受益者負担)も考える
- ・共有財産というが、その帰属・契約・著作権・委託・特別会計を具体的に示してほしい

3. 公立公営グループ

(1) 公立公営施設の特性について

標記テーマで議論したが、今後、公営施設として維持できるかとの意見もあった。

- ・運営費をどう捻出するか
- ・公営施設の宿命でもある職員の異動の問題
- ・ボランティアの技術習得と機器購入に負担がかかる

(2) 「情報化対応特別管理費」の一部徴収の提案について

提案内容は理解するものの、詳しい情報がほしいとの意見が大勢を占めた。

- ・正式文書を出してほしい。その方が予算要求しやすい
- ・会費規約を見直し、会費の値上げを検討する
- ・管理費の別枠要求はむずかしい(当初予算で計上している)

(3) IT革命について

- ・日本点字図書館、日本ライトハウスにメンテナンスと事務局運営をお願いする
- ・地方施設は、利用者に対応していく
- ・「ないーぶネット」は全視情協の事業であり、財産権は全視情協に属する
- ・厚生労働省に対して「ないーぶネット」維持費の予算要求を行う
- ・ITに対する地方の役割は、利用者がネットワークを使えるようにすること(研修、底あげ)
- ・公共図書館と一つになっていくことも考える

第20回音訳指導技術講習会 (第6回音訳指導員資格認定講習会) 報 告

開催日時 平成13年11月20日(火)~22日(木)
会 場 日本ライトハウス盲人情報文化センター(大阪市)
参加者 89名(施設職員15名、ボランティア74名)

1 講義科目と概要は以下のとおり

- (1) 視覚障害者情報提供施設のネットワークシステム
(講師：日本ライトハウス盲人情報文化センター 村井 晶人氏)
- (2) ボランティア養成概論
(講師：神奈川県ライトセンター 姉崎 久志氏)
- (3) 音訳マニュアル活用法
(講師：福井県視力障害者福祉協会点字図書館 兄父 由起子氏)
- (4) 処理技術 、 、
(講師：東京ヘレン・ケラー協会点字図書館 西川 博行氏)
- (5) 音声表現技術
(講師：デジタル編集協議会ひなぎく 河合 和美氏)
- (6) 視覚障害者福祉概論
(講師：日本ライトハウス盲人情報文化センター 岩井 和彦氏)

2 概括

今回も、定員を上回る参加申し込みがあったが、会場の容量から判断して、全員を受け入れることとした。参加者89名中、74名とボランティアの占める割合が多かった。(前回は、72名中、51名がボランティア)

2日目全日(9:30~17:30)を費やし、多くの音訳者が悩んでいる「処理」をテーマに設定したのが、今回の特色となった。休憩時間や講座日程外にも、講師への質問や相談が相次ぎ、処理に対する関心の高さを感じた。

講習会を企画・運営する立場にとって気にかかるのは、内容的にどうであったかということであるが、講座終了時に回収したアンケート(回収率91%)によると、概ね好評を得ることができ、一安心というところである。熱心な参加者に恵まれた講習会であったというのが、主催者としての感想である。

平成14年度は、音訳指導員資格認定済の者を対象とした「フォローアップ研修」を大阪で行う予定。

デジター録音図書補充アンケート結果報告

平成13年春、日本リハビリテーション協会がデジター録音図書に関するアンケート調査を行いました。全視情協加盟施設を含む93施設に対する調査でした。各施設から寄せられた回答をまとめると、以下のようにになりました。報告が遅れましたことをおわびいたします。

配布された2580タイトルのデジター録音図書について、次の各項目にお答えください。

1. 今までにデジター録音図書はどれくらい貸し出されましたか？

回答：0～100タイトル	6施設
101～500	15
501～1000	16
1001タイトル以上	52
(延べ127,654タイトル。不明・無回答施設を除く平均貸出タイトル数は1467)	

2. 貸出された図書のうち、キズ等不具合を起こした図書がありましたか？

回答：はい	34施設
いいえ	56

3. 前項で「はい」とお答えの施設にお尋ねします。

「不具合」とはどのようなものでしたか？(複数回答可)

回答：指紋の汚れ	5施設
指紋以外の汚れと傷	6
その他	30
(その他は、「キャディの破損」が大半で、他には途中切れ・雑音など)	

4. 破損して新たに差し替えしたいデジター録音図書は何タイトルありますか？

回答：0タイトル	66施設
1～10	16
11～50	6
51～100	3
101タイトル以上	0

5. 配布済み2580タイトルとは別に、今までに自館で何タイトルのデジタイズ録音図書を製作されましたか？

回答：0タイトル	16施設
1～10	15
11～50	22
51～100	25
101タイトル以上	13

6. 自館製作されたデジタイズ録音図書のマスターはPCMですかADPCM2ですか？
(複数回答可)

回答：PCM	31施設
ADPCM2	67
(なし)	15)

7. 2580タイトルのデジタイズ録音図書は短期間に大量に製作されたもので、一部音声に問題があったり、一部不揃いなコレクションになっていたりします。一部修正あるいは補充するとすれば、どのようなご希望がありますか？ご提案ください。

回答：「希望あり」は21施設（内容については割愛します）

お知らせ

システム管理委員会委員の交代

システム管理委員会委員の滝沢政晴氏（日本点字図書館）の退職に伴い、後任として、平成14年1月1日付けで岩上義則氏（日本点字図書館・副館長）が就任されました。

滝沢氏には「ないーぶネット」構築にあたってひとかたならぬお世話になり、心より感謝申し上げます。

「点訳のてびき」等、書籍の改訂について

この度の点字表記法の改訂に伴い、当協会発行の「点訳のてびき」等も改訂いたします。新年度4月からの講習会等に間に合うよう、3月中には発売予定です。ご活用ください。

「点訳のてびき(第3版)」定価1,000円(3月上旬発行予定)

「初めての点訳(第2版)」定価未定(3月中旬発行予定)

「点訳問題集(基礎編)」定価未定(3月末発行予定)

「点訳問題集(応用編)」「点訳問題集(例文編)」につきましても順次改訂の予定です。

ご案内

当協会では、視覚障害者福祉関係の書籍発行ならびにデージー図書製作関連商品の取り扱いをいたしております。合わせて販売も行っていますのでご利用ください。

【書籍】

ご注文は、(株)大活字にて承っています。

(株)大活字

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-1-9 三崎町ビル3F

TEL 03-5282-4361

FAX 03-5282-4362

- 『初めての点訳』(500円、14年3月改訂版発行予定)
- 『初めての音訳』(500円)
- 『初めてのガイド』(500円)
- 「視覚障害者介護技術シリーズ」(1500円、上記3冊のセット)
- 『点訳のてびき 第2版』(800円、14年3月改訂版発行予定)
- 『点訳問題集(基礎編)』(250円、14年3月改訂版発行予定)
- 『点訳問題集(応用編)』(350円)
- 『点訳問題集(例文編)』(450円)
- 『点訳問題解答集(基礎編)』(450円)
- 『点訳問題解答集(応用編)』(700円)
- 『点訳問題解答集(例文編)』(1500円)
- 『点字読み方練習文』(500円)
- 『音訳マニュアル 音訳・調査編』(800円)
- 『音訳マニュアル 録音編』(600円)
- 『ビデオ版 初めてのガイド』(3150円、書籍版「初めてのガイド」1冊付)
(上記は現行価格です)

【デージー図書製作関連商品】

ご注文は、当協会事務局までお願いします。

全国視覚障害者情報提供施設協会事務局

〒500-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2

TEL 06-6441-0015

FAX 06-6441-0039

CD郵送ケース(キャディ用)(会員価格@180円・50枚単位、一般価格@200円)

CD郵送ケース(Pケース用)(会員価格@180円・50枚単位、一般価格@200円)

CDキャディケース(半透明タイプ@300円、透明タイプ@390円、100枚単位)

CD-R(三井化学製、@120円、100枚単位)

(上記は税別価格。CD郵送ケースのみ送料を別途ご負担ください。)